



浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成13年3月

第10号

親鸞聖人は

「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろずの事、みなもってそらごと、たわごと
真ある事なきがゆえに、ただ念仏のみぞまことにておわします。」

とお導きくださいました。

このお念仏はいつの時代も変わりなく私たちを正しく導いてくださり、私たちの生活に
うるおいを与えてくださっています。ですからお念仏は遠い遠い先祖から面々と受け継が
れ、今日に至り、そしてこれからも子に孫にと受け継がれることでしょう。

本年六月一日、二日と、本山東京本願寺において、東京本願寺第二十六世大谷光見おおたにこうけんほっす法主
伝燈式が執行されます。

これはおよそ八百年の永きに亘り御開山親鸞聖人直系の歴代の御法主が伝えてこられた
念仏の法の燈火を、このたび第二十六世大谷光見御法主台下が、私たちの目の前でこれを
受け継がれ、高らかに法主継職を宣言されるという儀式です。

こうした有難い御法主伝燈式に会わせていただくご縁は二度と有るとは思えません。誠
に有難い意義深いご法要でございますので、ご参詣させていただこうではありませんか。

当寺では、六月一日(金)と二日(土)観光バスによる団参を計画いたしました。両日も
ご参加くださればなお結構でございますが、どちらか1日だけでもご参加くださるようお
願いたします。合掌 住職

読者の広場

私たち婦人会は一年を通じて、毎月定例会にはご住職のありがたい法話を頂いており
ます。昨年十二月八日、ご住職は黒板に「二河白道」とお書きになりました。一年の、
いや二十世紀の締めくくりとして私にはとても印象に残ったご法話でした。そのお話は、
「一人の旅人が広野を旅していくと河に行き当たってしまう。その河は、南は火炎渦巻く
火の河。北は波浪さかまく水の河。この火の河と水の河の境に、細い白い道がある。この
白道は火炎と波浪が交互に激しく寄せてくるので危なくて渡れそうも無い。仕方なく引き
返そうと後ろを向くと、群賊悪獣が追ってくるのです。白道を渡れば河に落ちて死んで
しまう。引き返せば悪獣の餌になる。とどまってもやがて喰い殺される。迷った末ど
うせ死ぬなら、阿弥陀仏の必ず守るぞの励ましを思い出し、意を決して白道を渡り、無
事対岸にたどり着くことができた。」というお話でした。

人には喜びも必ずありますが、また、辛くて悲しいことも沢山あった事など私にも深く
刻まれており、そうしたことの大きな小なりの連続の毎日が人生であり、その中で生きて
ゆかねばならず、そんな時迷わず、ただ一筋に仏様のみ教えを求めて精進したならば、必
ずやお浄土への道が開けることを改めて気づかせていただきながら、暮れ行く師走の道を
一生懸命、自転車をこいで帰路についたのであります。「二河白道」今日のご法話を噛み
締めながら。高井 キク

『目から鱗が落ちた。』

ご住職の法話の中に、「各々かたちの違った苦しみをみんなお持ちです。路傍の草花は、
踏まれても踏まれてもきれいな赤・黄・白・色々のお花を元気に咲かせています。花は、
種々な障害を受けながらも、太陽の光に照らされてきれいに咲いているのです。人間も多
々苦しいことがあります。仏様の慈光に照らされているのですよ。」とお話くださいまし
た。しかしその事を忘れて不足ばかり・・・申し訳なく思っている私です。

苦しいこともいっぱいありますが、私も心にきれいなお花を咲かせてみせますと心に誓
いました。丹羽 富枝

長命だった父母を思い我が身のもと、生かされていることを忘れたわけではありません
が、願う心の欲の深さに、反省させられている私です。小菅 ちよ子

なれない雪道足取られ

時間を気にし

日曜礼拝へ急ぎ足

私の為に本堂は暖められ

阿弥陀様が待っていてくださる

ナンマンダブツ ナンマンダブツ

栗田 満江



『中国国宝展にて』

昨年十二月のはじめ、上野の東京国立博物館にて、中国国宝展が開かれておりました。
冬としては比較的暖かな土曜日一日、出かけてみようと思立ちました。

会場内は大勢の人の熱気でむせ返るようでした。世紀末何百年もの文化が数多く陳列さ
れている中で、「如来の浄土」というタイトルのついた石仏が目にとまりました。正面から
見たお顔は穏やかで、その微笑みは会う者を和ませてくださいました。背中全面にはお浄
土を偲ばせる様子が細かく彫り刻まれ、思わず引き込まれていきました。背中が一番上に
立ち姿の仏様。その足元から出ている道の両側には座ったお姿の小さな仏様が整然と隙間
なく並び、その周りには美しいお花が咲き、尾の長いまたは短い色々な形の鳥が飛び交い、
まさに背中全体目を見張る思いでした。

昔も今も先人がえがかれたお浄土の有様が今の時代でも懐かしくさえ感じさせてくれる
のはどうしてでしょうか・・・

余韻を残し会場を後にして、上野の森を歩きながら、十二月の定例会で住職様より聴聞
させていただきました「二河白道」の法話を思い出し、西に向かう細く清らかな白い道を、
お念仏と共に素直な気持ちで歩いていくことが出来たらと思いながら帰途につきました。
匿名希望

編集後記

婦人会便りご愛読くださりましてありがとうございます。また、投稿にご協力くださ
いましたこと感謝しております。引き続き読者の皆様からのご意見、ご感想、俳句、短歌な
どどのようなものでも結構ですので、下記宛にご協力のほどよろしくお願いいたします。

高島美智枝 電話 042-752-3870